

読響

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

カラフルな音色を引き出す世界的名匠

桂冠指揮者

シルヴァン・カンブルラン

Conductor SYLVAIN CAMBRELING

ベルリン・フィルで首席を務める俊英

ヴィオラ

アミハイ・グロス

Viola AMIHAI GROSZ

ウェーベルン

パッサカリア 作品1

WEBERN: Passacaglia, op. 1

シン・ドンファン

ヴィオラ協奏曲「糸の太陽たち」(日本初演)

SHIN DONGHOON: Viola Concerto "Threadsuns" (Japan Premiere)

デュティユー

瞬間の神秘

DUTILLEUX: Mystère de l'instant

デュティユー

メタボール

DUTILLEUX: Métaboles

音が、光差す。

色彩の魔術師が描く 一夜の絵画

読売日本交響楽団 第658回定期演奏会

2026 5/20(水) 19:00 サントリーホール

S¥8,800 A¥7,700 B¥6,600 C¥5,000

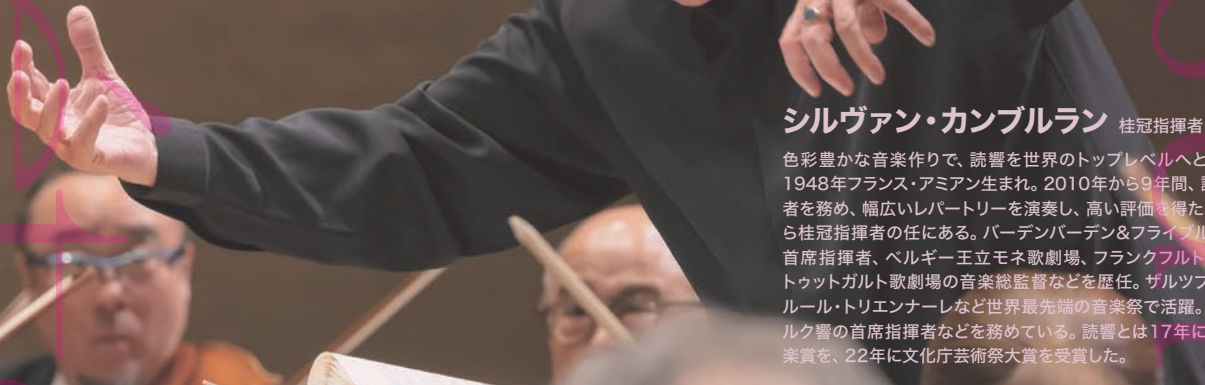
YNSO Subscription Concert No. 658 Wed. 20 May 2026, 19:00 Suntory Hall

読響チケットセンター 0570-00-4390(10時-18時・年中無休)

主催: 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

協力: アフラック生命保険株式会社

名匠カンブルランが紡ぎ出す
まばゆいばかりの色彩の妙。
今宵、無限のスペクトルが
ホールを彩る。



シルヴァン・カンブルラン 桂冠指揮者

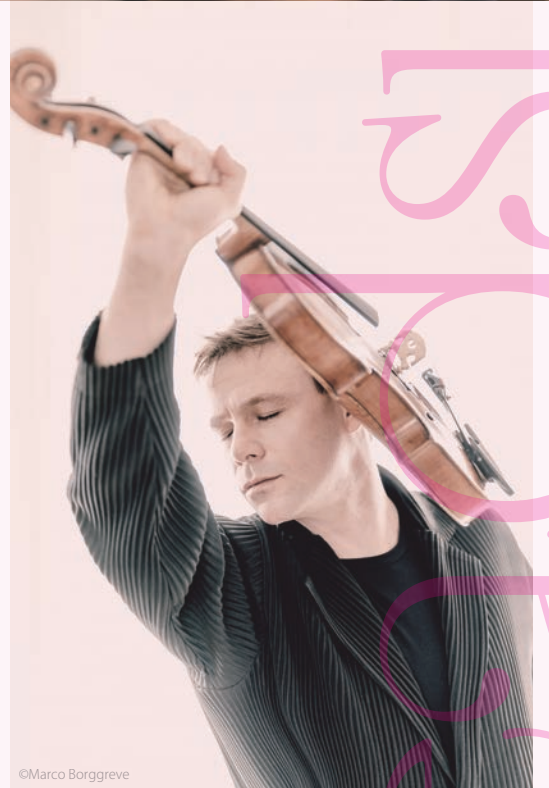
色彩豊かな音楽作りで、読響を世界のトップレベルへと導いた名匠。1948年フランス・アミアン生まれ。2010年から9年間、読響常任指揮者を務め、幅広いレパートリーを演奏し、高い評価を得た。19年4月から桂冠指揮者の任にある。バーデンバーデン&フライブルクSWR響の首席指揮者、ベルギー王立モネ歌劇場、フランクフルト歌劇場、シュトゥットガルト歌劇場の音楽総監督などを歴任。ザルツブルク音楽祭、ルール・トリエンナーレなど世界最先端の音楽祭で活躍。現在、ハンブルク響の首席指揮者などを務めている。読響とは17年にサントリー音楽賞を、22年に文化庁芸術祭大賞を受賞した。

その卓越した音色の感覚から「色彩の魔術師」と呼ばれるシルヴァン・カンブルラン。2010年から9年間、読響常任指揮者としてメシアンのアラベリアのオペラ「アッシジの聖フランチェスコ」などで歴史に残る演奏を成し遂げたマエストロは、20世紀以降の現代作品に造詣が深い。かつてその思いをこう語った。「人が音楽を聴く時の感じ方は、突き詰めると好きか嫌いか。それを判断するために、なるべく多くの現代曲を聴いてほしい。なぜなら私たちは皆、同じ時代に生きているのですから」

そう考えれば、鉄道がなかった時代のベートーヴェンより新幹線に乗ったかも知れないメシアンの方が私たちにより近いかもしれない。私たちの耳は、はたして好き嫌いを判断できるほど現代作品になじんでいるだろうか。

メシアンより8歳年下のアンリ・デュティユーは、一瞬ごとに変化・流動する音楽とオーケストラの響きが生み出す鮮やかな色彩感が特徴だ。20世紀後半に書かれた代表作「メタボール」(変容)と「瞬間の神秘」は、まさに「色彩の魔術師」にうってつけ。直観的な解釈と巧みな構成力が、音楽をまるでひとつの生命体であるかのように描き出すだろう。そして1983年生まれの韓国の作曲家シン・ドンフンのヴァイオリン協奏曲「糸の太陽たち」(日本初演)もうれしいプレゼントだ。ソリストは昨年ベルリン・フィルで世界初演された際に見事な独奏を聴かせた同フィル首席奏者アミハイ・グロス。読響として負けてはいられない。

「糸の太陽たち」というタイトルは、ウクライナ生まれのユダヤ系詩人パウル・ツェランの詩から取られている。詩の内容は…… いや、事前に種明かしするのはやめよう。知らなくても大丈夫。カンブルランは腕利きのシェフのように「さあ、これは絶品ですよ。どうぞ召し上がれ!」と笑顔で私たちを迎えてくれるだろう。



©Marco Borggreve

アミハイ・グロス ヴィオラ

ベルリン・フィルの首席ヴァイオリン奏者を務める俊英。若くして数々の賞を受賞し、エルサレム音楽センターのヤング・ミュージシャンズ・グループにも選出される。ソロ、室内楽、オーケストラと幅広く活躍しており、パレンボイム、ヤンセン、ラクリン、ソヒエフ、ゲリンガスをはじめとした一流アーティストと共演。コンセルトヘボウ、ウイグモア・ホールなどの著名コンサートホールで演奏している。ヴェルビエ音楽祭、BBCプロムスなど世界各地の音楽祭にも出演している。使用楽器は、個人コレクションより終身貸与された1570年製ガスパロ・ダ・サロのヴァイオリン。読響初登場。

読売日本交響楽団 第658回定期演奏会

2026年 5月20日(水) 19時開演

サントリーホール

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥8,800/A ¥7,700/B ¥6,600/C ¥5,000

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。■ご購入いただいたチケットは、公演が中止になった場合以外でのキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時-18時・年中無休

読響チケットWEB <https://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料



プレイガイド サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017

読響ホームページ <https://yomikyo.or.jp/>